

千葉県看護協会 「令和4年度 看護職定着確保動向調査（求職者）」概要

離職理由は「人間関係」21.5%、「出産育児子供のため」20.0%、「看護内容への不満」15.4%

調査の概要

調査目的	離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件等を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る
調査対象	千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職
調査時期	令和4年5月16日～令和4年5月30日
調査方法	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収
回収状況	配布数：429名 回収数：65名 回収率：15.2%

調査結果のポイント

1. 回収状況と回答者の属性

- 今年度は429名に配布し、回収数は65名で、回収率は15.2%であった。前年度は、386名に配布し、回収数は132名で、回収率は34.2%だった。比較し、19ポイント減少した。
- 性別は、「女性」95.4%、「男性」3.1%であった。
- 年齢は、「40代」が32.3%と最も多く、次いで「30代」29.2%、「60歳以上」18.5%の順であった。
- 居住地区は、「千葉地区」30.8%が最も多く、次いで「船橋地区」21.5%、「東葛地区」12.3%の順であった。
- ブランク期間は、「0～3年」の61.5%が最も多く、次いで「6～10年」12.3%、「4～5年」10.8%、「11年以上」7.7%の順であった。

2. 離職時の職種、雇用形態、勤務形態

- 離職時の職種は、「看護師」が最も多く78.5%、次いで「准看護師」9.2%、同率で「保健師」「助産師」4.6%の順であった。
- 離職時の雇用形態は、同率で「正規職員」「非常勤職員」が46.2%と最も多く、次いで「派遣」3.1%、の順であった。
- 離職時の勤務形態は「日勤のみ」が最も多く53.8%、次いで「二交代制」16.9%、「短時間勤務」15.4%の順であった。

3. 看護業務の通算勤務年数、離職直前の施設での勤務年数

- 看護業務の通算勤務年数は、「10～14年」が最も多く26.2%、次いで「20年以上」24.6%、「7～9年」20.0%、「4～6年」12.3%の順であった。

表1 看護業務の通算勤務年数

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
1	2	8	13	17	7	16	1
1.5%	3.1%	12.3%	20.0%	26.2%	10.8%	24.6%	1.5%

○離職直前の施設での勤務年数は、「1～3年」が最も多く32.3%、次いで「7～9年」20.0%、「4年～6年」15.4%の順であった。

4. 離職理由

○離職理由は、「人間関係」が最も多く21.5%、次いで「出産育児子供のため」20.0%、「看護内容への不満」15.4%であった。

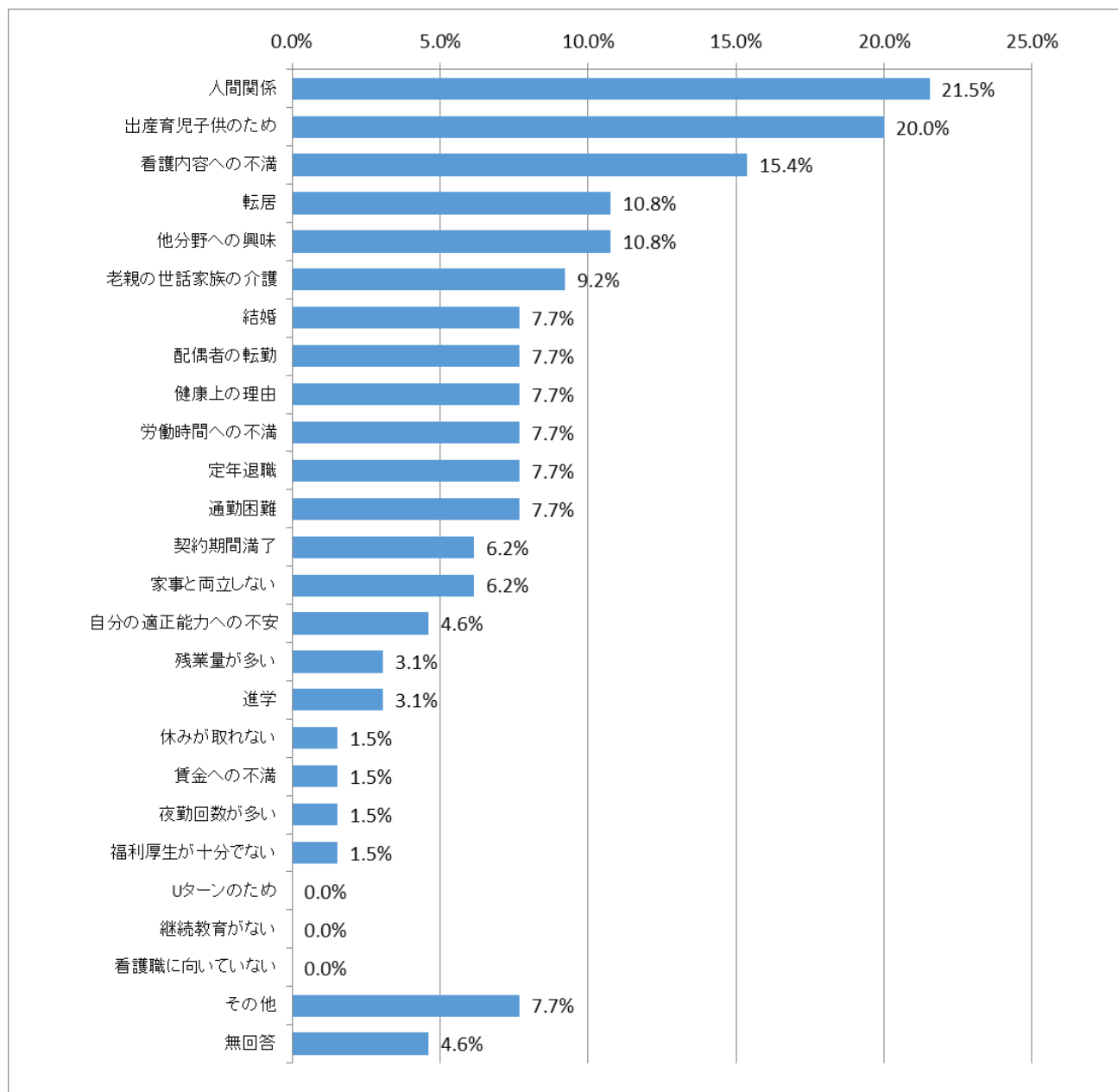


図1 離職理由（複数回答）

5. 人間関係が難しかった相手

○離職理由で「人間関係」を選択した人に人間関係が難しかった相手を尋ねると、「同僚」57.1%が最も多く、次いで「先輩」28.6%、同率で「師長等中間管理職」「他の専門職」21.4%であった。

6. 「看護内容への不満」の具体的理由

○離職理由を「看護内容への不満」と回答した具体的理由は、「看護業務以外の仕事が多い」70.0%が最も多かった。

7. 就業条件

○就業条件は、「通勤に便利な職場」が最も多く 50.8%、次いで「休みがとりやすい」49.2%、「柔軟な勤務形態の導入」38.5%、「夜勤がない」24.6%の順であった。

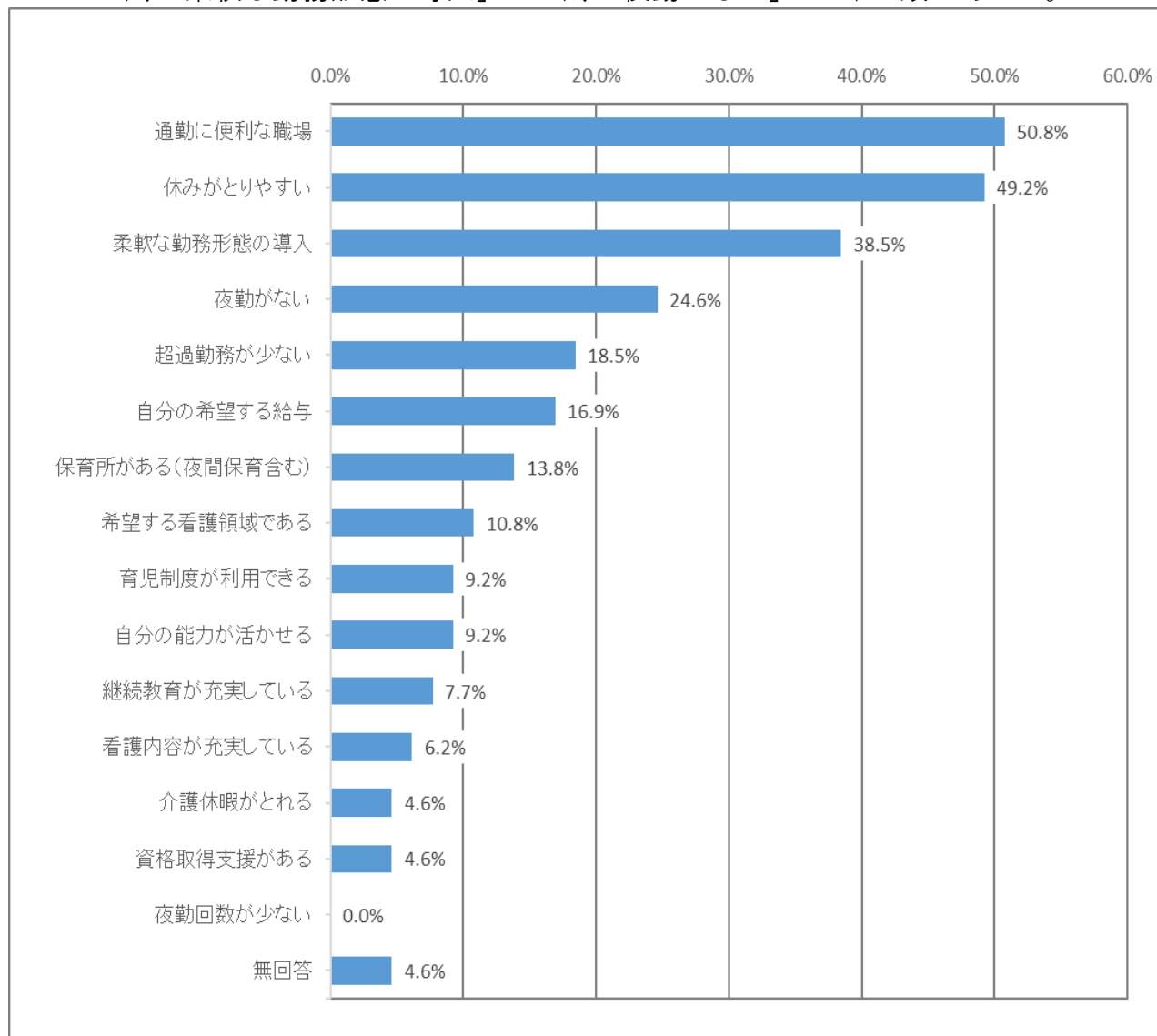


図2 希望の就業条件